

日本大学理工学部交通土木工学科 ○学生会員 宮川 和工

日本大学理工学部社会交通工学科 正会員 伊東 孝

1. はじめに

瀬戸内海に面する地域は古くから石造文化が発達しており、鞆の浦も例外ではない。地元住民にとって、石造建造物はありふれたものであり、われわれ関東人が意識するほど重要な土木遺産として意識していないのではないだろうか。このことから広島県福山市鞆の浦を事例とし、ワークショップ（以下、W.S）でスケッチ手法を用いて石造建造物に対する意識調査をおこなった。

これまでのW.Sは参加型まちづくりの誘導方策としての実施が多い。しかし今回はそれとは異なり、スケッチと感想から石造建造物に対する住民意識を分析した。

2. 鞆の浦の概要

広島県の東端福山市鞆の浦は瀬戸内海の中央に位置することから、瀬戸内海で満潮は最も遅く、また干潮は最も早い。そのため中世から潮待ち・風待ちの港として知られる。また雁木・常夜燈・波止など、当時の石造港湾施設が現存する港でもある。

3. 調査方法

住民ひとりひとりに意識的に観察してもらうため、石の積み方など構造に着目してスケッチをするよう条件づけた。スケッチの裏には何故その建造物を選んだのか、またスケッチ後の感想を書き込んでもらった。最後にそのスケッチを10m×8mのガリバー地図に貼り付け、スケッチ場所を把握するとともに、スケッチ対象の把握をかねて、自己紹介と上記の感想などを報告してもらった。

以上の感想をデータ化するため、まず感想を単語に分解し、動詞の活用を終止形になおし、同じ単語または同じ意味の単語をまとめて個数を数えた。このデータを、数量化理論3類により解析した。数量化理論3

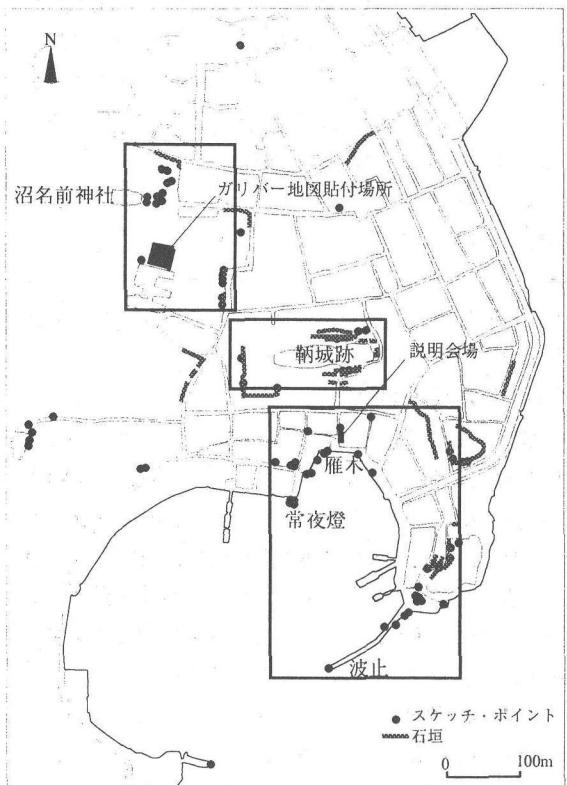


図1 石造建造物のスケッチ対象分布図

類は目的変数のない場合の手法のひとつで、変数相互の関連性を調べることができる。

4. 解析結果

4-1 スケッチポイントの類型化

スケッチ総数80枚を図1にプロットすると、集中地域が大きく3つに分かれた。港湾地域、寺社、城跡の3地域で、各地域で一番多かった対象物は、港湾地域では常夜燈、寺社では沼名前神社、城跡は鞆城跡となる。これら対象物は、住民にとってのランドマークであるといえる。

キーワード：ワークショップ、石造建造物、数量化理論3類、鞆の浦、スケッチ手法

連絡先：千葉県船橋市習志野台7-24-1 日本大学理工学部社会交通工学科都市環境計画研究室

4-2 出現頻度による類型化

出現語総数は414語、出現語種数は246語であった。これは、スケッチ一枚あたり5.2語を使って感想を書いたことになる。次に住民の意識を具体的に把握するため、感想から得られた出現語の頻度をとらえてみる。

出現頻度の最も高い単語は、「石」で21回であった。つづいて、「ある」や「積む」といった状態をあらわす動詞になる(図2)。スケッチ対象として指定した「石」や「石垣」の多いのは当然として、印象や評価を表す「きれい」や「おもしろい」という言葉が多めに抽出された。また図2にはあらわれないが「すごい」「いい」「美しい」「なつかしい」などもみられた。報告会での発言を考慮して考えると、ふだん気にしていなかった石造構造物に、あらためて魅力を発見したようだ。

4-3 数量化理論3類による類型化

住民がどのような視点から石造構造物をとらえているかを把握するため、出現頻度4以上の単語を対象に数量化理論3類による分析をおこなった。結果は、寄与率が4軸累積で48.1%と低い、以下のように解釈した。

分析結果から1軸を縦に、2軸を横にした項目の分布図を作成した(図3)。図3は1軸と2軸のみの表示だが、実際は4軸まで解析をおこなった。4軸までの結果から特徴的な点をあげると、2軸を除いてすべての軸で「きれい」が+側に、「おもしろい」が-側に分布している。また「見える」と「積む」も2軸を除いて、一定の距離間をとっている。以上から、1軸は動詞軸(受動的⇔能動的)、2軸は即物的名詞軸(価値評価的⇔動作的)としてとらえられる。

注目したい点として、2軸に関して+側には「石」「形」「積む」という部分をとらえる単語がきている。これに対し、-側に「石垣」「ある」「描く」という全体をとらえる単語がある。これは、スケッチという作業が主眼だったので、石垣という全体像より、ディテールに目を奪われた結果がでたと思われる。

5. おわりに

今回いずれの感想を読んでも、石造構造物を否定的にとらえたものはなかった。これはW.S手法のような自由参加型の調査では、参加する人と参加しない人で、まず最初に分類されてしまうことが大きいと考えられる。

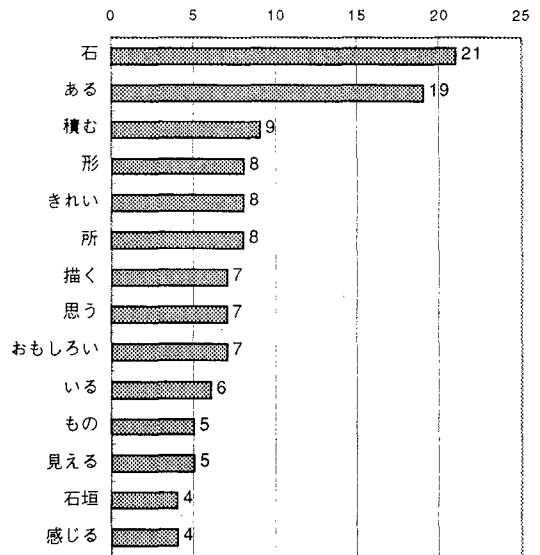


図2 感想文中の出現語頻度(4回以上)

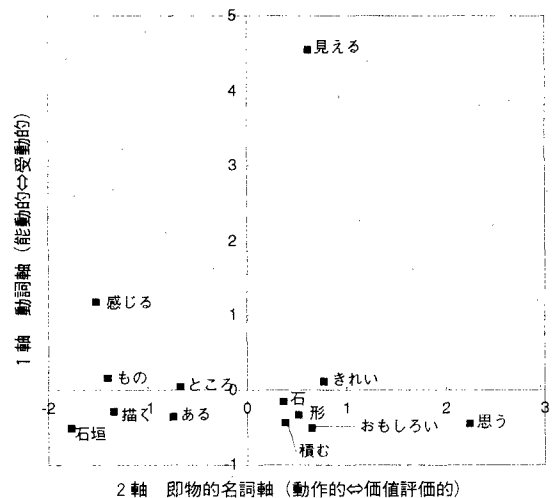


図3 数量化理論による項目の分布

スケッチポイントの分析から住民のとらえるランドマークがわかり、数量化理論3類では、石造構造物に対する住民意識の構成因子を探った。今回のデータと分析では、W.Sに参加した住民意識を十分鮮明化できなかったが、参加者の意識は、よい方向に考える人が圧倒的に多いようだ。

本研究は、H13年度日本財団の助成金を受けたものである。